

林美智子メゾ・ソプラノ・リサイタル

ピアノ：石野真穂

1部

赤とんぼ……………山田耕筰（詞：三木露風）
お葉子と娘……………橋本国彦（詞：西条八十）
くちなし……………高田三郎（詞：高野喜久雄）
貝がらの歌……………三善晃（詞：三善晃）
市の花屋……………高田三郎（詞：深尾須磨子）
落葉松……………小林秀雄（詞：野上彰）
小さな空……………武満徹（詞：武満徹）
ねむの木の子守歌……………山本正美（詞：美智子上皇后）
旅のころ……………加藤昌則（詞：高田敏子）
夢見たものは……………木下牧子（詞：立原道造）

2部

歌劇「セルセ」より……………ヘンデル
オンブラ・マイ・フ……………
歌劇「ミニヨン」より……………トマ
君知るや南の国……………
歌劇「カルメン」より……………ビゼー
～ハイライト～（ピアノソロ）
ハバネラ……………
歌劇「サムソンとデリラ」より……………サン＝サーンス
あなたの歌声に心は開く……………

秋

2021
四季コンサート

2021年10月7日(木) 17:45開場 18:30開演
会場：アクトシティ浜松中ホール
主催：浜松音楽友の会

プロフィール

林美智子（はやしみちこ）メゾ・ソプラノ

東京音楽大学卒業。桐朋学園大学研究科、二期会オペラスタジオ、新国立劇場オペラ研修所第1期修了。文化庁派遣芸術家在外研修員としてミュンヘンに留学。2003年国際ミロブロス声楽コンクール最高位入賞。第5回ホテルオークラ音楽賞受賞。

2002年、新国立劇場「ヘンゼルとグレーテル」ヘンゼルでオペラ・デビュー。以降、二期会、新国立劇場を中心に数多くのオペラに出演、2015年には紀尾井ホールにて「オリンピアデ」のアルジェーネ、日生劇場にて「ドン・ジョヴァンニ」エルヴィーラ役と、初役に挑み卓越した歌唱と抜群の存在感を示した。

これまでにチョン・ミョンフン、パーヴォ・ヤルヴィなど国内外の指揮者と国内外の主要オーケストラにも共演を重ね、ベートーヴェン「第九」、マーラー「復活」第4交響曲、ブラームス「アルト・ラブソディ」、ベルク「初期の7つの歌」や、ヘンデル「メサイア」、ヴェルディ「レクイエム」、デュリュフレ「レクイエム」をはじめとする宗教曲などで高い評価を得ている。

また、モーツァルト作曲「コジ・ファン・トゥッテ」や「フィガロの結婚」「ドン・ジョヴァンニ」を自らプロデュースするなど人気、実力ともに群を抜くメゾ・ソプラノとして幅広く活動している。

CDは「赤と黒」「地球はマルイゼ～武満徹：SONGS～」(レコード芸術特選盤)「ベル・エクサントリック～林美智子ベル・エボック歌曲集」をリリース。

オフィシャル・ホームページ <https://hayashimichiko.themedia.jp/>

石野真穂（いしのまほ）ピアノ

桐朋学園大学音楽学部
ピアノ専攻卒業。同大学
アンサンブル・ディプロマ
修了。その後、パリ市立
シャトレ劇場に於いてサビース・



ヴァタンのもと、コレペティトゥアの研鑽を積む。在仏中、劇場主催コンサート「les midi musicaux」を始め、数々の演奏会に出演。帰国後はコレペティトゥアとして活動し、二期会、新国立劇場、びわ湖ホール、日生劇場などのオペラ公演に関わる。また声楽を中心とする共演ピアニストとしての演奏の機会も多く、多くの声楽家から信頼を得ている。近年ではオペラのチェンバロ奏者としても演奏する他、静岡国際オペラコンクール公式伴奏者として、また東京NHK児童合唱団の初演ピアニストとして、積極的な活動を行う。

二期会オペラ研修所ピアニスト。新国立劇場オペラ研修所ピアニスト。

林美智子
メゾ・ソプラノ
リサイタル



MICHIKO HAYASHI
MEZZO SOPRANO
RECITAL

●山田耕筰(詞:三木露風)／赤とんぼ

三木露風が幼い頃の思い出をもとに綴った詩に付曲。故郷の夕暮れの情景をうたった歌詞を遠い過去を懐かしむような叙情的な旋律が支える。

●橋本国彦(詞:西条八十)／お菓子と娘

仏文学者・西条八十のフランス滞在経験を活かした歌詞で、パリの街をゆくパリジェンヌの小粋な様子が歌われる。愛らしい旋律と場面の変化を表す伴奏の展開が印象的。

●高田三郎(詞:高野喜久雄)／くちなし

くちなしの木の成長を通して亡き父と子の思い出が想起される。亡き父が語った言葉が出てくる部分では、8分音符と3連符とを巧みに使い分けた旋律で父の口調が再現される。

●三善晃(詞:三善晃)／貝がらの歌

作曲者本人によって作詞作曲された作品。行きつ戻りつする波のような伴奏にのせて柔らかな旋律で故郷への想いが歌われる。

●高田三郎(詞:深尾須磨子)／市の花屋

深尾須磨子の詩を扱った歌曲集『パリ旅情』のなかの一曲。パリの街の花屋で交わされる店主と客との冗談めいたやりとりが軽妙な音楽とともにテンポよく進行する。

●小林秀雄(詞:野上彰)／落葉松

詩の発音上の高低アクセントを厳密に反映させ、言葉に付随する抑揚やリズムを活かした旋律になっている。秋の雨に濡れたしっとりとした光景が静かに浮かび上がる。

●武満徹(詞:武満徹)／小さな空

シンプルで清々しい旋律に対して、伴奏は空の色が時間とともに移りゆく様を感情の移ろいに重ね、グラデーションのような和音進行でそれを描きだす。

●山本正美(詞:美智子上皇后)／ねむの木の子守歌

美智子上皇后が高校時代につくった詩に付曲。冒頭は日本のわらべうた風に同度と2度を繰り返す旋律で始まり、次第に音域を上げると、半音を効果的にさし挟みながら展開する。

●加藤昌則(詞:高田敏子)／旅のこころ

高田敏子による切なさやあたたかさが同居する詩への付曲。作品全体を貫く「旅はいつも あなたとふたり」というフレーズを通して旅の記憶を辿れば、旅先での「あなた」との思い出が音や手ざわりを伴ってありありとよみがえる。

●木下牧子(詞:立原道造)／夢見たものは

24歳の若さで世を去った詩人・立原道造の晩年の詩に込められた、静かな日常のなかにあるささやかな幸福と生への憧憬が、シンプルだが力強い音楽へと収斂されている。

●ヘンデル／歌劇「セルセ」より オンブラ・マイ・フ

クセルクセス1世を題材とした18世紀のオペラで、〈オンブラ・マイ・フ(樹木の陰で)〉は第一幕にクセルクセスによってプラタナスの木陰への愛の歌として歌われる。緩やかな上行と下行で構成された伸びやかな旋律が特徴。

●トマ／歌劇「ミニヨン」より 君知るや南の国

19世紀につくられたアンブロワーズ・トマの代表的オペラ作品。旅興行の一座で歌う身寄りのない少女ミニヨンは、素性をたずねられて戸惑いながらも故郷の南の国に思いを馳せて歌う。

●ビゼー／歌劇「カルメン」より ～ハイライト～

舞台は19世紀前半のスペイン、セヴィリア。奔放なジプシー女性・カルメンは、自分に恋する純朴な青年ドン・ホセを翻弄し、彼の人生を狂わせていく。欲望のままに次々と男たちを誘惑するカルメンに愛憎の念を募らせたホセは、とうとうカルメンを自らの手で刺し殺す。オペラ全体がカルメンの運命を象徴するようなスペイン風の情熱的なリズムとメランコリックな音楽で満ちており、前奏曲、〈闘牛士の歌〉、〈花の歌〉など、どこかで耳にしたことのある有名な曲を多く含んでいる。

●ビゼー／歌劇「カルメン」より ハバネラ

カルメンが舞曲ハバネラのリズムにのせて「恋は野の鳥 誰にも手なずけることはできない」と自由気ままな恋愛を語り、ホセを誘惑する。半音階の下行やボルタメントを多用した象徴的な旋律をメゾソプラノの低めの声に歌わせることで魔性の女性カルメンの妖しさと官能性を引き出している。

●サン＝サーンス／歌劇「サムソンとデリラ」より あなたの歌声に心は開く

旧約聖書の士師記に基づくオペラ作品。イスラエルのガザでヘブライ人はペリシテ人の支配下にあったが、ヘブライ人の英雄サムソンが立ち上がり、ガザの太守を殺してヘブライ人を解放する。ヘブライ人とサムソンへの復讐を持ちかけられたペリシテ人の美女デリラは頑なに拒むサムソンを誘惑し、いよいよデリラの魅力に抗えなくなったサムソンに「あなたの歌声に心は開く」と愛を囁く。

アンコール曲:村井邦彦(詞:山上路夫)／翼をください